

安全・安心の米作り営農技術に関する産官学連携研究

プロジェクト研究「安全・安心の米作り営農技術に関する産官学連携研究」チームは、滋賀県内の農業関係者、行政関係者、民間の環境産業の技術者、大学研究者の緩やかなネットワークを基盤に形成された研究チームである。本研究の目的は、第一に、安全・安心の米作りの営農技術の研究を推進することであり、第二に、営農技術研究の動向に関する情報収集をおこなうことであり、第三に、そうした安全安心の米作りの営農技術や研究成果を地域に普及していくことを目的にしている。こうした目的を実現するためには、研究や行政の施策を従来のように個別的に展開していたのでは限界があり、産官学の連携が求められているところである。産官学の連携による共同研究基盤の形成、研究ネットワークを構築、その研究成果を地域に還元する研究と研究成果の還元の好循環の形成が求められている。本研究チームは、産官学の連携による共同研究の推進と研究成果の普及を進めることで、究極的には、環境保全型農業の普及と活力ある農村経済の確立に資することを目的としている。

さて、本研究チームでは、これまでに対外的なセミナーシンポジウムを3回、公開された「安全安心の米作り戦略研究会」を1回開催してきた。本研究チーム形成の切っ掛けになったのは、2005年2月に開催された「安全な米作りのための営農技術ワークショップ」である。安全な米作りのための営農技術ワークショップの開催は、安全な米作りのための技術の研究の推進と普及・啓発を図ることを目的とし、多くの参加者をえて盛会であった。技術の普及啓発の目的は大いに達成された。そして、このワークショップの開催を契機に、滋賀県内の農業関係者、環境技術者、行政関係者、大学関係者などからなる安全な米作り研究ネットワークの構築をはかる契機となった。

また、2005年10月には、びわ湖環境ビジネスメッセ協賛セミナーとして、「いのち育む持続可能な地域づくりへの挑戦 - 生物多様性と地域経済の再生 - 」を開催した。このセミナーは、国家戦略となっている生物多様性の保全から環境問題を考え、自然再生を進めながら地域力を高める事例に学ぶことを第一の目的にしたものである。持続可能な地域づくりを生物多様性の側面から考えること、生物多様性をお米のブランドに結びつける「生き物ブランド米」に関する議論などを行った。セミナーを通じて、生物多様

性の意義、自然再生の思想とその方法論、自然再生の社会的意義、科学の果たすべき役割について鷲谷いずみ氏から報告して頂き、全国から生物多様性を高めながら地域の生産力(経済力)を高めている事例を報告してもらった。環境再生と地域経済の再生の公共政策の可能性について活発な議論が行われた。生物多様性の保全から「環境保全型地域経済モデル」の可能性を検討する必要性、持続可能な地域づくりの課題と展望について幾つかの論点が出された。

そして、2006年2月には、第2回食の安全・安心を考えるシンポジウム - 食の安全・安心は生産者と消費者の連携から - を開催した。基調報告者の小若順一氏からは、安全な食品を確立するためには、消費者と生産者の連携の必要性などが力説された。また、森真理氏からDNA鑑定技術の到達点とそれを利用した政策的な意義などが報告された。清水浩太郎氏からは、山形県で先進的に取り組まれている残留農薬のリスク管理の手法が紹介された。

セミナー研究会の開催状況

「安全な米作り営農技術ワークショップ」

開催日時等

日時：2005年2月28日(月)13:00~17:30

場所：滋賀大学彦根キャンパス

第2校舎棟 第24講義室

シンポジウム・プログラム

基調講演:「国際食品規格策定過程と食の安全に関して - 米中カドミウムを中心として - 」

講師：香山不二雄氏(自治医科大学・教授)

研究報告

「農産物等中カドミウムのプロセス定量分析とリスク管理」

講師：中島秀治氏(中央農業総合研究センター)

「カドミウム対策技術の最前線」

講師：村上政治(農業環境技術研究所)

「滋賀県下におけるカドミウム問題の現状と対策」

講師：太田喜信(滋賀県環境こだわり農業課)

「カドミウム対策に関する実験結果からの考察」

講師：広瀬恢氏(株式会社 日吉・技術顧問)

総合討論

主催等

主催 滋賀大学環境総合研究センター、医療経済・福祉研究会

後援 滋賀県、JA 滋賀中央会、JA 全農しが

協賛 (株)日吉

「安全安心の米作り戦略研究会」

開催日時等

日時：2005年6月10日(金)14:30~16:00

場所：滋賀大学大津サテライト

研究報告

太田喜信氏(滋賀県環境こだわり農業課・参事)

川地 武氏(滋賀県立大学・教授)

びわ湖環境ビジネスメッセ 2005 協賛セミナー

「いのち育む持続可能な地域づくりへの挑戦 - 生物多様性と地域経済の再生 - 」

開催日時等

日時：2005年10月19日(水)13:00~16:30

場所：滋賀県立文化産業交流会館 小劇場(米原市)

セミナー・プログラム

第1部

基調講演

「自然再生への挑戦」

講師：鷺谷 いづみ/東京大学 農学生命科学研究科 教授

第2部

生物多様性と地域経済の再生の取り組み事例報告(14:00~15:00)

「魚のゆりかご水田プロジェクト -魚に出会える湖辺(うみべ)の里づくり- (滋賀県)」

講師：田中 茂穂/滋賀県 農政水産部農村振興課農村環境担当 主査

「コウノトリ育む農業の意義と将来展望 (兵庫県)」

講師：西村 いつき/兵庫県 豊岡農業改良普及センター 普及主査

「丹頂の遊ぶ自然を味方に高度な酪農を創る -緑の回廊

と持続可能な農村づくり- (北海道浜中町)」

講師：吉家 裕明/北海道浜中町 農林課農業振興係長

第3部

パネルディスカッション

パネリスト：鷺谷 いづみ

：吉家 裕明

：田中 茂穂

：西川 宗右衛門/水土里ネット愛西(愛西土地

改良区) 事務局長

：西村 いつき

コーディネータ：只友 景士/滋賀大学 環境総合研究センター 助教授

「第2回食の安全・安心を考えるシンポジウム - 食の安全・安心は生産者と消費者の連携から - 」

開催日時等

日時：2006年2月28日(火) 13:00~16:30

場所：滋賀大学彦根キャンパス第2校舎棟第24講義室

シンポジウム・プログラム

基調講演：「食品の安全性を確保するには」

講師：小若 順一氏(特定非営利活動法人 食品と暮らしの安全基金)

研究報告

「お米の品種を見分ける技術とその使い方 - 農産物のDNA鑑定 - 」

講師：森 真理氏(滋賀県農業技術振興センター)

「山形県における残留農薬のリスク管理」

講師：清水浩太郎氏(山形県農林水産部農業技術課エコ農業推進室)

総合討論

主催等

主催 滋賀大学環境総合研究センター

後援 滋賀県、JA 滋賀中央会、JA 全農しが

協賛 (株)日吉